



Report on research

養豚、採卵鶏は 増収増益 稲作、茶、肉用牛は 大幅減益に

—2013年農業経営動向分析—

2013年は、中小家畜の養豚一貫、採卵鶏が販売価格高に支えられ増収増益となりました。しかし稲作、茶は販売価格安や天候不順により、また肉用牛肥育はコスト上昇などにより個人、法人とも減益となりました。

この経営動向分析は、農業を営む日本公庫のお客さまを対象に、三カ年(二〇一一年～二〇一三年)の決算データを基に損益の動向や財務指標などを分析し、取りまとめたものです。

米価下落で稲作減益

経営部門別に二〇一二年と一三年の収支を比較したところ、耕種部門では、稲作が一三年産米の作柄や品質が前年とほぼ同水準だった一方、米価が下落したことにより、個人、法人ともに減収減益となりました(表1)。

茶も、一三年産の一番茶の生産量が天候の影響で前年を下回ったことや一部生産地で価格が前年を

下回ったことなどにより、個人、法人ともに減収減益となりました。

露地野菜については、北海道の個人経営が、一三年九月以降タマネギの価格が前年を上回る価格で推移したことなどにより増収増益となった一方、都府県の個人経営は売上高、所得ともほぼ前年と同水準となりました。また、法人では利益水準が低いながらも増益となりました。

畜産部門では、養豚一貫が一三年の豚肉卸売価格が前年を上回る価格で推移したため、個人、法人とも一割超の増収となり、利益も大幅に増加しました。

採卵鶏も、鶏卵価格が一三年八月以降高値で推移したため、個人、

法人とも一割超の増収となり、収支も大幅に改善し、黒字転換となりました。

一方、肉用牛肥育は、牛肉卸売価格が全品種とも前年を上回る価格で推移し、個人、法人とも小幅ながら増収となったものの、飼料費や素畜費などの材料費が増加したため、いずれも減益となりました。

耕種は業種差大きく

二〇一三年の個人経営(耕種部門)の収支状況を経営部門別にみると、売上高については、果樹を除き、概ね三〇〇万円～四〇〇万円程度となっています(表2)。

また、農家所得については、多くの業種で七〇〇万円～八〇〇万円程度となっていますが、露地野菜は一〇〇〇万円を超える一方、果樹、茶、きのこでは五〇〇万円程度と、業種による差が大きくなっています。

また、売上高に対する借入金残高の比率(売上高借入金残高比率)は、多くの業種で七五～九〇%となつていますが、露地野菜(都府県)では四五%程度と低くなつています(図1)。

費用に占める材料費の割合(材料比率)は畑作(北海道)と露地野菜(北海道)が高く、その他の業種

は概ね三〇～四〇%前後となっています(図2)。

同じく、労務費の割合(労務費率)は果樹、施設野菜、きのこなど、人手が必要な業種で高くなっています。減価償却費の割合(減価償却費率)は稲作(都府県)が最も高くなつており、施設や機械の負担が大きいたことが分かります。

畜産は耕種比で薄利

同様に、個人経営の畜産部門を分析したところ、売上高は酪農で七〇〇万円～九〇〇万円、その他の業種では一億円を超えています(表3)。

一方、農家所得については、酪農(北海道)、肉用牛肥育、養豚一貫で一〇〇〇万円を超えています。酪農(都府県)、採卵鶏、ブロイラーでは六〇〇万円程度となっています。

売上高借入金残高比率は、酪農(北海道)が約八〇%と突出して高い一方、ブロイラーでは三〇%未満と低くなつています(図3)。

なお、畜産部門では、売上高キャッシュフロー比率と売上高借入金残高比率の相関が見てとれますが、採卵鶏では借入金残高比率が高い一方で、キャッシュフロー比率が低く、他の畜種に比べて借入金の返済が

表1 経営部門別の収支(2012年と2013年の比較)

(金額単位:百万円)

経営部門			個人経営						法人経営							
			サンプル数	売上高			農家所得 (専従者給与控除前)			サンプル数	売上高			経常利益		
				2012年	2013年	増減率	2012年	2013年	増減率		2012年	2013年	増減率	2012年	2013年	増減率
耕種	稲作	北海道	55	32.6	29.4	↓ ▲9.7%	11.2	8.2	↓↓ ▲26.3%	624	61.6	61.2	→ ▲0.6%	8.8	6.1	↓↓ ▲31.0%
		都府県	1,451	26.5	26.2	→ ▲1.1%	8.3	7.2	↓ ▲12.3%							
	北海道畑作		39	45.6	42.9	↓ ▲5.9%	10.6	8.5	↓↓ ▲20.0%	32	84.6	90.0	↑ 6.3%	0.2	2.0	↑↑ 864.0%
	果樹		336	16.0	15.9	→ ▲0.9%	5.4	4.9	→ ▲9.7%	31	98.4	106.3	↑ 7.9%	2.1	1.6	→ 百万円未満
	露地野菜	北海道	66	39.9	43.7	↑ 9.4%	12.1	14.1	↑ 16.7%	41	102.5	106.8	→ 4.2%	0.5	3.3	↑↑ 629.5%
		都府県	311	34.7	35.8	→ 3.1%	10.4	10.6	→ 2.1%							
	施設野菜		620	30.9	31.4	→ 1.7%	8.9	8.4	→ ▲4.9%	45	108.1	113.8	↑ 5.3%	▲0.5	▲0.6	→ 百万円未満
	施設花き		278	37.4	37.8	→ 1.0%	7.5	7.6	→ 1.0%	32	91.5	93.5	→ 2.1%	▲1.2	▲0.9	→ 百万円未満
	茶		181	31.9	29.3	↓ ▲8.0%	6.7	4.4	↓↓ ▲34.4%	47	123.3	111.0	↓ ▲9.9%	6.2	2.4	↓↓ ▲61.5%
	きのこ		35	32.6	33.1	→ 1.6%	4.3	5.1	→ 百万円未満	21	351.7	373.0	↑ 6.1%	9.5	22.2	↑↑ 133.4%
畜産	酪農	北海道	82	87.3	91.8	↑ 5.3%	10.6	10.7	→ 1.2%	86	223.3	233.9	→ 4.7%	6.6	11.8	↑↑ 78.1%
		都府県	832	68.8	72.0	→ 4.6%	6.4	6.5	→ 1.8%	154	194.1	203.6	→ 4.9%	5.9	4.8	↓ ▲18.5%
	肉用牛肥育		465	126.6	131.4	→ 3.8%	15.1	12.9	↓ ▲14.7%	112	576.7	585.6	→ 1.6%	45.9	32.1	↓↓ ▲30.0%
	養豚一貫		154	95.2	110.0	↑↑ 15.6%	5.9	11.2	↑↑ 89.7%	204	467.5	514.5	↑↑ 10.1%	0.9	13.1	↑↑ 1365.5%
	採卵鶏		37	116.5	130.1	↑↑ 11.7%	▲0.3	6.1	↑↑ 黒字転換	106	760.6	854.0	↑↑ 12.3%	▲3.5	27.7	↑↑ 黒字転換
	ブロイラー		29	126.6	132.0	→ 4.2%	9.2	6.7	↓↓ ▲27.3%	27	600.7	608.2	→ 1.2%	▲8.3	▲3.0	↑ 赤字幅縮小

○増減率・売上高 ↑↑: 10%以上増 ↑: 5%以上~10%未満増 →: ±5%未満増減 ↓: 5%以上~10%未満減 ↓↓: 10%以上減
 ・農家所得・経常利益 ↑↑: 20%以上増 ↑: 10%以上~20%未満増 →: ±10%未満増減 ↓: 10%以上~20%未満減 ↓↓: 20%以上減

注1: 農業所得・経常利益については、増減幅が100万円未満の場合は上記によらず → とした。また、増幅100万円以上で黒字転換の場合は ↑↑、赤字幅縮小の場合は ↑ とした。
 2: 四捨五入の関係上、増減率が一致しない場合がある。

タイトであることが分かります。

材料費率は耕種に比べて高く、全ての畜種で六〇%以上(耕種では三〇〜五〇%)となっています(図4)。

なお、肉用牛肥育では費用に占める素畜費の割合(素畜費率)が高く、特に肉用種で素畜費が飼料費より高くなっています。

また、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラーでは飼料費の割合(飼料費率)が六〇%前後と高く、飼料価格の上昇が経営に与える影響が大きいたことが分かります。

(情報企画部 畑脇 太一)

【集計・分析対象など】

○集計・分析対象先

公庫取引先六五三三先(個人経営
四九七一先、法人経営一五六二先)

○対象経営部門(農業収入の第一位部門で区分)

耕種八部門・稲作、北海道畑作、果樹、露地野菜、施設野菜、施設花き、茶、きのこ

畜産五部門・酪農、肉用牛肥育、養豚一貫、採卵鶏、ブロイラー

○対象決算期

二〇一一年・二二年・一三年
法人は各年一二月〜翌年三月が決算期のもの

【注】

○文書中の「増益」や「減益」は、個人経営では農家所得(専従者給与控除前・税引前)、法人経営では経常利益で判断している。

図2 2013年の個人経営のコスト内訳(耕種部門)

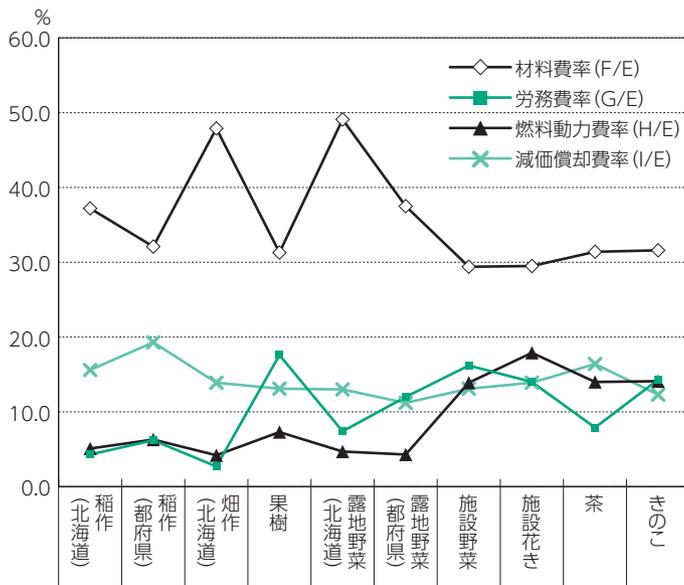


図1 2013年の個人経営の所得率など(耕種部門)

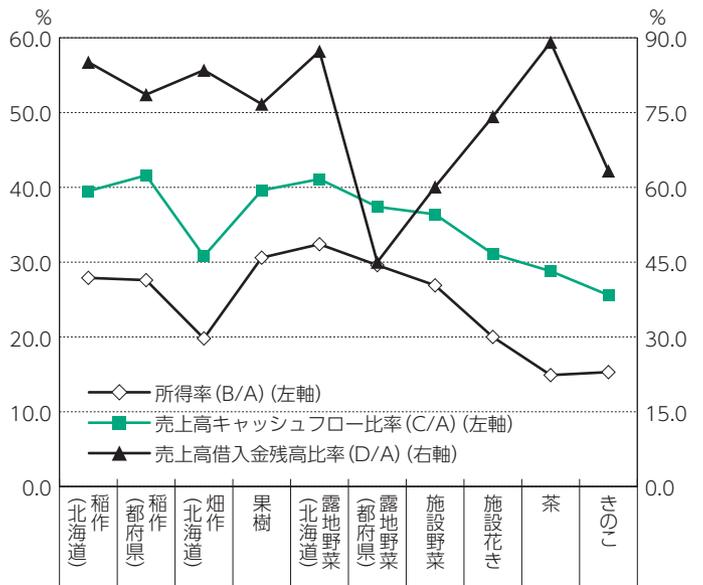


図4 2013年の個人経営のコスト内訳(畜産部門)

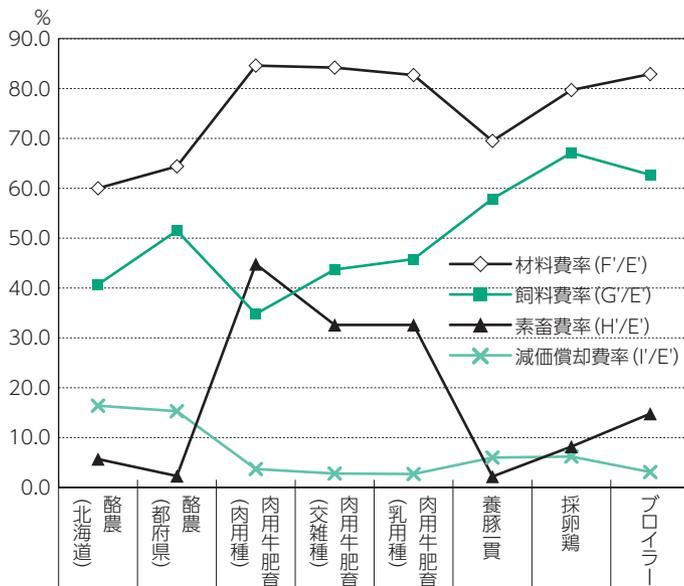


図3 2013年の個人経営の所得率など(畜産部門)

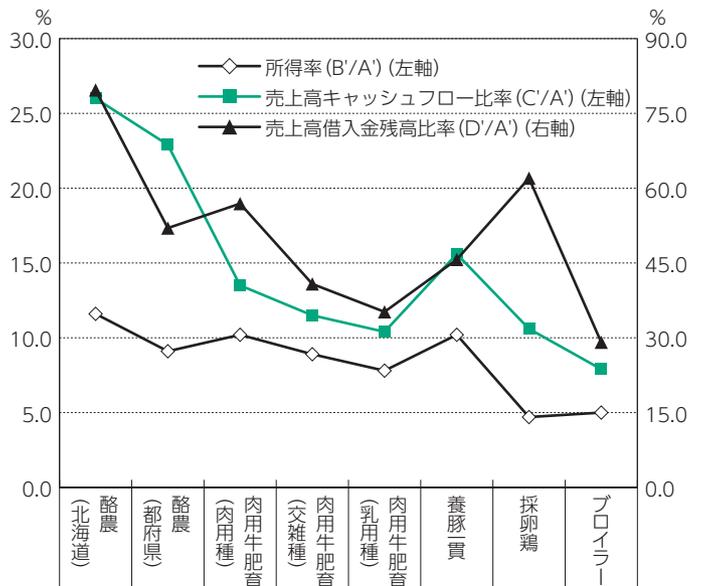


表2 2013年の個人経営の収支状況(耕種部門)

(金額単位:百万円)

属性	稲作		畑作	果樹	露地野菜		施設野菜	施設花き	茶	きのこ
	北海道	都府県	北海道		北海道	都府県				
サンプル数	55	1,451	39	336	66	311	620	278	181	35
経営規模	水稲作付面積(%)		経営耕地面積(%)	第1位品目作付面積(ha)			第1位品目栽培面積(千㎡)	茶園面積(%)	-	
	14.2	12.7	40.4	2.4	9.5	3.7	6.0	5.9	6.0	-
売上高(A)	29.4	26.2	42.9	15.9	43.7	35.8	31.4	37.8	29.3	33.1
費用(E)	21.8	18.9	33.8	10.9	29.1	25.1	22.9	30.2	24.8	27.8
期首棚卸高	1.3	1.1	2.2	1.0	18.2	0.7	0.3	1.8	0.4	0.6
材料費(F)	8.1	6.1	16.2	3.4	14.3	9.4	6.7	8.9	7.8	8.8
労務費・人件費(G)	0.9	1.2	0.9	1.9	2.2	3.0	3.7	4.2	2.0	4.0
燃料動力費(H)	1.1	1.2	1.4	0.8	1.4	1.1	3.2	5.4	3.5	3.9
賃借料・リース料	2.0	2.1	3.9	0.2	2.0	0.7	0.5	0.4	0.8	0.5
減価償却費(I)	3.4	3.7	4.7	1.4	3.8	2.8	3.0	4.2	4.1	3.4
その他費用	6.5	4.8	6.9	3.0	8.3	8.1	5.8	7.0	6.7	7.3
期末棚卸高	-1.5	-1.1	-2.5	-0.9	-21.0	-0.7	-0.3	-1.7	-0.3	-0.7
営業利益	7.7	7.3	9.0	5.0	14.5	10.7	8.5	7.6	4.6	5.3
営業外損益	0.6	-0.1	-0.5	-0.1	-0.4	-0.1	-0.0	-0.1	-0.2	-0.3
農家所得(専従者給与控除前)(B)	8.2	7.2	8.5	4.9	14.1	10.6	8.4	7.6	4.4	5.1
減価償却前(C)	11.6	10.9	13.2	6.3	17.9	13.4	11.4	11.8	8.4	8.5
(参考) 専従者給与	2.6	2.5	5.3	2.0	5.2	5.2	4.0	4.3	2.9	2.8
(参考) 借入金残高(D)	25.1	20.6	35.8	12.2	38.1	16.1	18.9	28.0	26.1	21.0

表3 2013年の個人経営の収支状況(畜産部門)

(金額単位:百万円)

属性	酪農		肉用牛肥育			養豚一貫	採卵鶏	ブロイラー
	北海道	都府県	肉用種	交雑種	乳用種			
サンプル数	82	832	372	62	25	154	37	29
経営規模	成牛頭数(頭)		飼養頭数(頭)			繁殖雌豚頭数(頭)	飼養羽数(千羽)	
	98.5	66.4	226.2	392.7	366.5	142.7	40.8	60.6
売上高(A)	91.8	72.0	124.9	167.2	145.5	110.0	130.1	132.0
費用(E)	80.7	65.2	111.6	152.0	136.9	98.6	124.1	125.0
期首棚卸高	4.0	1.2	90.8	120.5	66.0	20.3	10.8	3.0
材料費(F)	48.5	42.0	94.4	128.0	113.2	68.5	98.8	103.6
飼料費(G)	32.9	33.6	38.8	66.5	62.7	57.1	83.2	78.4
素畜費(H)	4.6	1.5	49.9	49.6	44.7	2.2	10.2	18.5
労務費・人件費	1.7	1.7	2.1	3.4	1.9	3.3	3.4	1.9
減価償却費(I)	13.2	10.0	4.1	4.2	3.7	5.9	7.7	3.8
その他費用	17.4	11.5	18.7	25.6	22.5	20.5	13.3	16.1
期末棚卸高	-4.0	-1.2	-98.5	-129.6	-70.4	-19.9	-10.0	-3.4
営業利益	11.1	6.9	13.3	15.2	8.7	11.4	6.0	7.0
営業外損益	-0.4	-0.3	-0.6	-0.3	2.7	-0.1	0.0	-0.3
農家所得(専従者給与控除前)(B)	10.7	6.5	12.7	15.0	11.4	11.2	6.1	6.7
減価償却前(C)	23.9	16.5	16.8	19.2	15.1	17.2	13.8	10.5
(参考) 専従者給与	5.4	3.1	2.2	2.2	2.3	5.2	4.4	3.5
(参考) 借入金残高(D)	73.2	37.5	71.0	68.2	51.3	50.3	80.7	38.4